

青森県内の消費生活相談状況（令和 7 年 4 月～6 月）のポイント

【相談全体に関して】

- 令和 7 年 4 - 6 月の消費生活相談件数は計 2,362 件で、前年同期と比較して 309 件の増加（増加率 15.1%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 81 件で、前年同期と比較し 108 件（57.1%）減少しました。これは、特殊詐欺のほとんどの種類の相談が減少したことが要因となっています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数は増加

- ・ 65 歳以上の高齢者からの相談件数 882 件（前年同期比+126 件、増加率 16.7%）
- ・ 相談全体に占める割合 37.3%（前年同期 36.8%）

② 各年代の相談状況

- ・ 20 歳未満からの相談件数 46 件（前年同期比+1 件、増加率 2.2%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（インターネットゲームやアダルトサイトなど）
- ・ 20 代からの相談件数 182 件（前年同期比+26 件、増加率 16.7%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（保健・福祉サービス、金融・保険サービスなど）
- ・ 30 代からの相談件数 140 件（前年同期比▲11 件、減少率 7.3%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 40 代からの相談件数 262 件（前年同期比+19 件、増加率 7.8%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 50 代からの相談件数 392 件（前年同期比+53 件、増加率 15.6%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 60 代からの相談件数 459 件（前年同期比+69 件、増加率 17.7%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 70 代以上からの相談件数 659 件（前年同期比+101 件、増加率 18.1%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、架空請求詐欺など）

③ 特殊詐欺に関する相談が減少

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 81 件（前年同期比▲108 件、減少率 57.1%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 3.4%（前年同期 9.2%）
- ・ 特殊詐欺のうち、投資詐欺相談件数 22 件（前年同期比▲27 件、減少率 55.1%）

④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（化粧品・健康食品等） 281 件（前年同期比+49 件、増加率 21.1%）

⑤ 副業に関する相談が減少

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 51 件（前年同期比▲16 件、減少率 23.9%）

令和7年4-6月における青森県内の消費生活相談状況

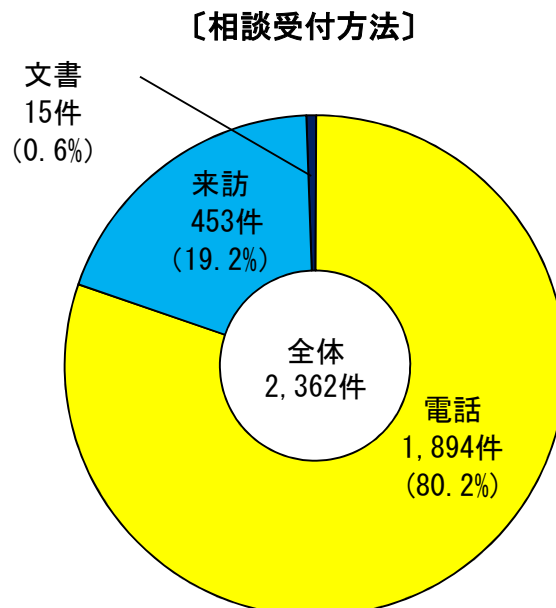
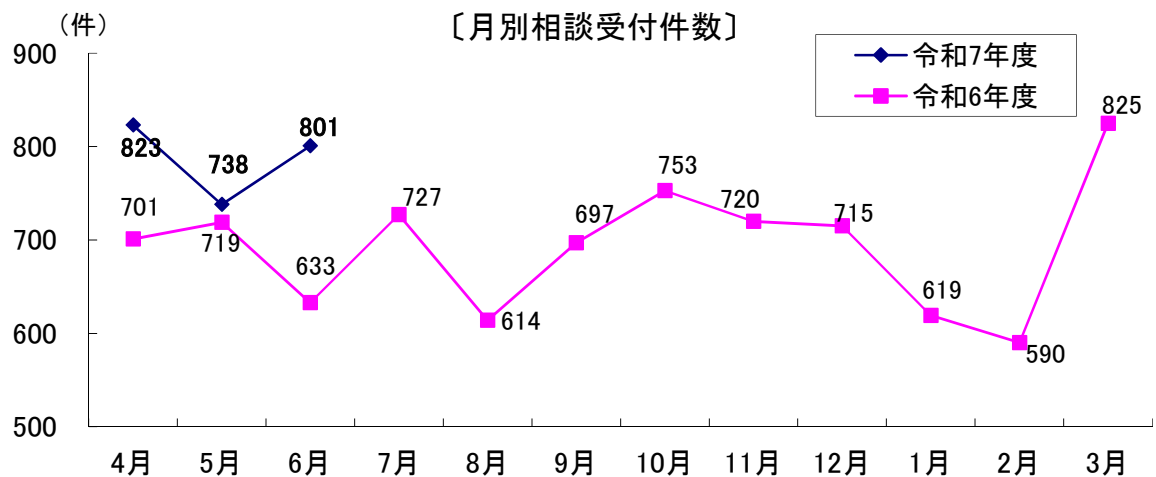
1 相談状況

(1) 概況

令和7年4-6月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、2,362件（苦情相談2,084件、問合せ278件）であり、前年同期と比較して309件（15.1%）増加しています。

（単位：件）

項目 \ 年度	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦 情	2,084	1,719	365	121.2%
問 合 せ	278	334	▲56	83.2%
計	2,362	2,053	309	115.1%

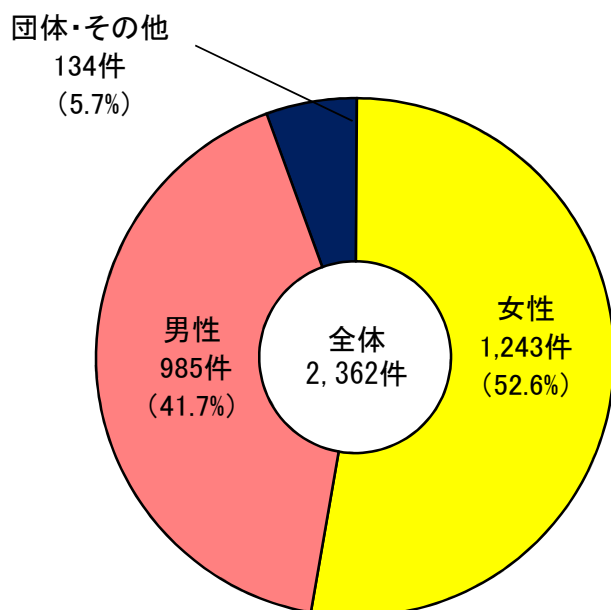


(2) 契約当事者の状況

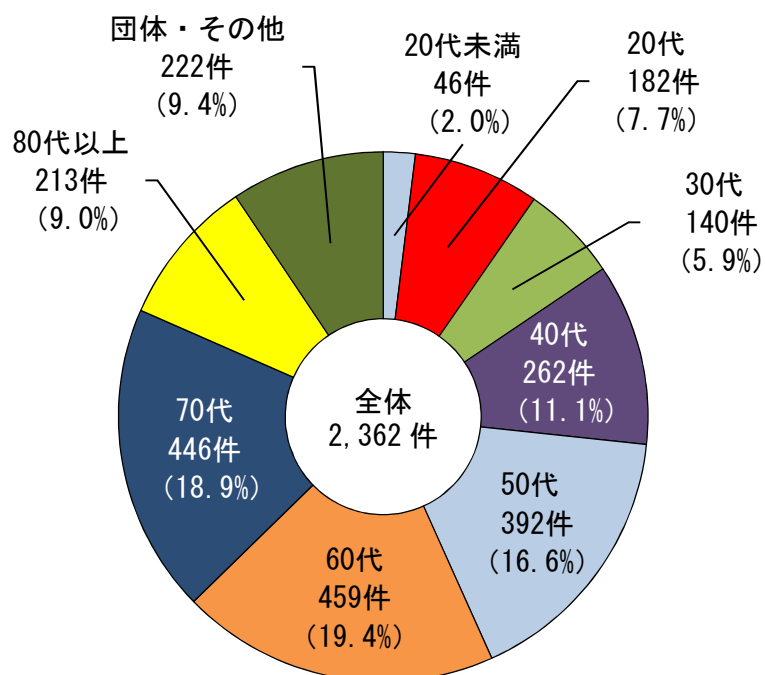
契約当事者を性別でみると、女性が1,243件で、全体の52.6%を占めています。年代別では60代が459件(19.4%)と最も多く、次いで70代が446件(18.9%)となっています。

また、契約当事者を職業別でみると、無職が888件(37.6%)と最も多く、次いで給与生活者が878件(37.2%)となっています。

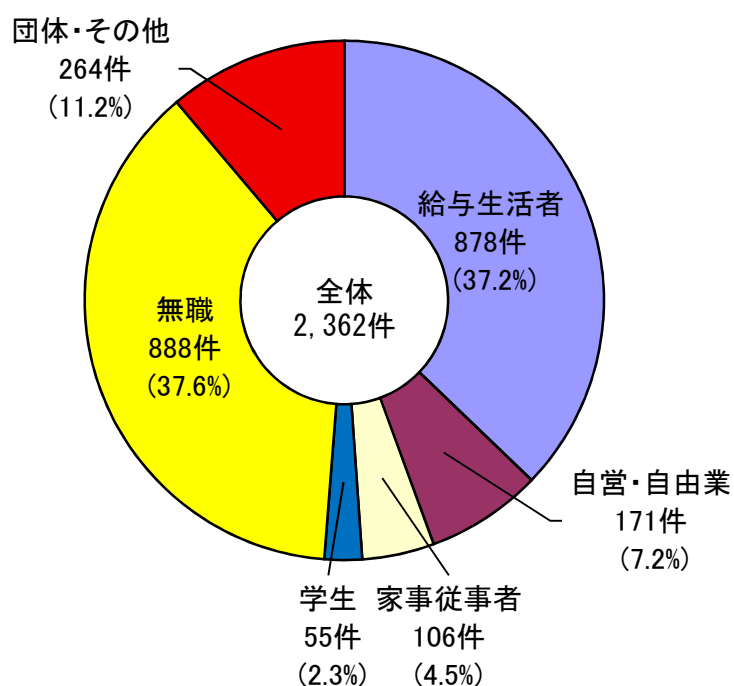
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	326	299	27	109.0%
2	保健衛生品	263	183	80	143.7%
3	運輸・通信サービス	243	173	70	140.5%
4	金融・保険サービス	184	224	▲40	82.1%
5	食料品	158	154	4	102.6%
	その他	1,188	1,020	168	116.5%
	計	2,362	2,053	309	115.1%

※商品役務別の詳細は P17 商品・役務別内訳表参照

1 「商品一般」

令和7年4-6月の相談件数は326件で、前年同期より27件(9.0%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品进行特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談や宅配業者等を騙るフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

2 「保健衛生品」

令和7年4-6月の相談件数は263件で、前年同期より80件(43.7%)増加しています。化粧品に関する相談が226件で全体の85.9%を占めています。保健衛生品のうち、205件は定期購入に関する相談となっており、前年同期144件より61件(42.4%)増加しています。

3 「運輸・通信サービス」

令和7年4-6月の相談件数は243件で、前年同期より70件(40.5%)増加しています。最も多いのは、インターネット通信サービスに関する相談の79件で前年同期74件から5件(6.8%)増加しています。また、固定電話に関する相談は75件で、前年同期43件より32件(74.4%)増加しています。総務省などの公的機関の名称を騙って「あと2時間で電話が使えなくなる」という自動音声流れる不審な電話に関する相談が増加したことが要因と考えられます。

4 「金融・保険サービス」

令和7年4-6月の相談件数は184件で、前年同期より40件(17.9%)減少しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の101件で、前年同期128件から27件(21.1%)減少しています。次いでクレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産やFXの投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

5 「食料品」

令和7年4-6月の相談件数は158件で、前年同期より4件(2.6%)増加しています。最も多いのは、健康食品の89件で、前年同期102件より13件(12.7%)減少しています。健康食品のうち、62件は定期購入に関する相談となっており、前年同期75件より13件(17.3%)減少しています。

(4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、インターネットゲームやアダルト情報の相談が主となっています。20代では、エステや美容医療などの保健・福祉サービスが1位になっています。30代、40代では、融資サービスなどの金融・保険サービスが1位になっています。

50代、60代は、化粧品等の定期購入に関する相談の保健衛生品が1位となっています。70代は、「あと2時間で電話が使えなくなる」という不審電話などの運輸・通信サービスが1位となっています。80代以上は、不審な電話やメールなどの商品一般が1位となっています。

（単位：件）

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	10	保健衛生品	6	被服品/教養娯楽品	各6
20代	保健・福祉サービス	37	金融・保険サービス	24	教養・娯楽サービス	20
30代	金融・保険サービス	21	商品一般/レンタル・リース・貸借/保健・福祉サービス			各12
40代	金融・保険サービス	32	保健衛生品	27	商品一般	25
50代	保健衛生品	73	商品一般	45	教養・娯楽サービス	38
60代	保健衛生品	86	商品一般	60	運輸・通信サービス	45
70代	運輸・通信サービス	87	商品一般	71	保健衛生品	43
80代以上	商品一般	55	食料品	35	運輸・通信サービス	26
その他・不明	商品一般	40	運輸・通信サービス	28	教養娯楽品	21

(5) 相談に係る契約等の既払金額

令和7年4-6月の相談に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数は増加しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額は大幅に減少しています。

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	564人	520人	44人	108.5%
既払金額合計	234,852千円	452,992千円	▲218,140千円	51.8%
平均既払金額（一人当たり）	416千円	871千円	▲455千円	47.8%
最大既払金額	30,000千円	40,000千円	▲10,000千円	75.0%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和7年4-6月の特殊詐欺に関する相談件数は81件で、前年同期より108件(57.1%)減少しています。類型別にみると、FX・暗号資産などの投資詐欺が22件(相談件数の27.2%)と最も多く、次いで振り込み詐欺の20件(同24.7%)、フィッシング詐欺の15件(同18.5%)となっています。

(単位：件)

類 型 \ 年 度	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
FX・暗号資産などの投資詐欺	22	49	▲27	44.9%
振り込み詐欺	20	54	▲34	37.0%
架空請求詐欺	19	48	▲29	39.6%
還付金詐欺	1	2	▲1	50.0%
融資保証金詐欺	0	3	▲3	-
オレオレ詐欺	0	1	▲1	-
フィッシング詐欺	15	55	▲40	27.3%
ワンクリック詐欺	9	12	▲3	75.0%
出会い系サイト・アプリ	8	7	1	114.3%
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	6	12	▲6	50.0%
老人ホームの入居権詐欺	1	0	1	-
合 計	81	189	▲108	42.9%

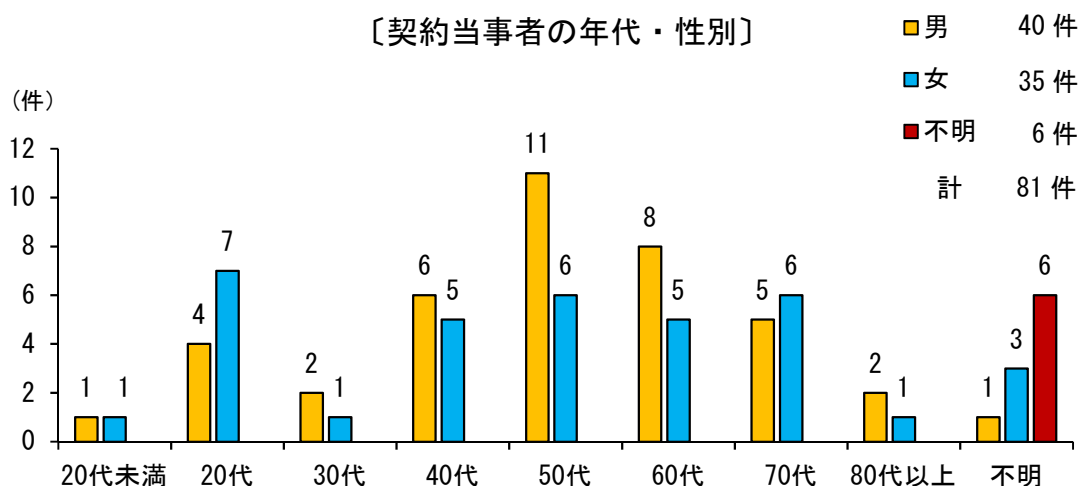
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類(P4)との対応状況

類型	主な商品・役務名
振り込み詐欺	
架空請求詐欺	商品一般、運輸・通信サービス
還付金詐欺	保健・福祉サービス
融資保証金詐欺	金融・保険サービス
オレオレ詐欺	相談その他
フィッシング詐欺	教養・娯楽サービス
FX・暗号資産などの投資詐欺	金融・保険サービス、教養・娯楽サービス
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス、他の役務
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	他の役務、教養・娯楽サービス
出会い系サイト・アプリ	教養・娯楽サービス
老人ホームの入居権詐欺	保健・福祉サービス

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和7年4-6月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別でみると、50代男性が11件で最も多く、次いで60代男性の8件となっています。これまでは、在宅率が高いと思われる高齢女性が多くなっていましたが、能動的に接点を持つ年代の男性の相談が目立っています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和7年4-6月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額のすべてが大幅に減少しています。

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	15 人	47 人	▲32 人	31.9%
既払金額合計	9,101 千円	87,152 千円	▲78,051 千円	10.4%
平均既払金額 (一人当たり)	607 千円	1,854 千円	▲1,247 千円	32.7%
最大既払金額	2,000 千円	10,000 千円	▲8,000 千円	20.0%

3 相談全般における特徴

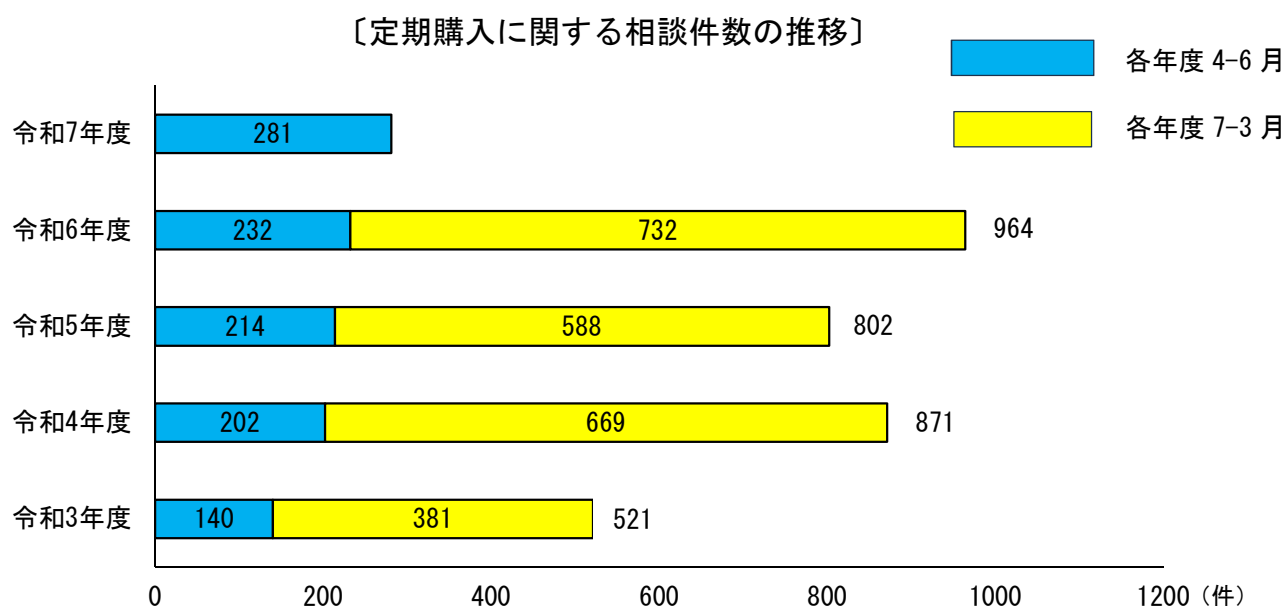
(1) 定期購入に関する相談が増加

令和7年4-6月の定期購入に関する相談は281件で、前年同期より49件(21.1%)増加しました。過去5年間の同時期の相談件数を見ると、令和7年4-6月が最も多くなっていることがわかります。

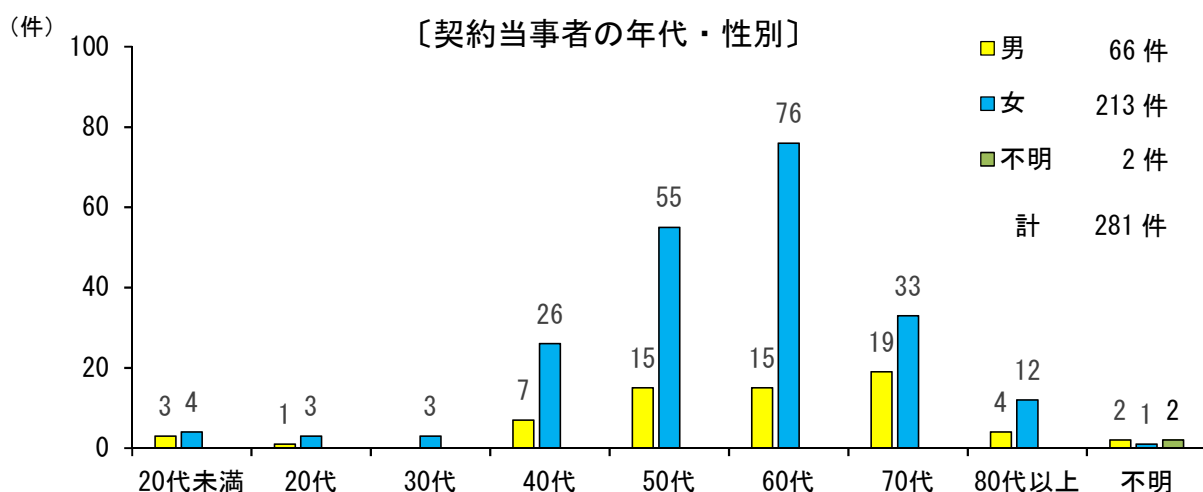
また、対象となる商品は化粧品が最も多い199件で、前年同期より70件(54.3%)増加、次いで健康食品が62件で、前年同期より13件(17.3%)減少しています。

(単位：件)

商品・役務名		令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	化粧品	199	129	70	154.3%
2	健康食品	62	75	▲13	82.7%
3	医薬品	6	11	▲5	54.5%
	その他	14	17	▲3	82.4%
計		281	232	49	121.1%



契約当事者の年代・性別でみると、60代女性が76件と最も多く、次いで50代女性が55件となっています。性別では、女性が213件と、全体の75.8%を占めています。



(2) 副業に関する相談が減少

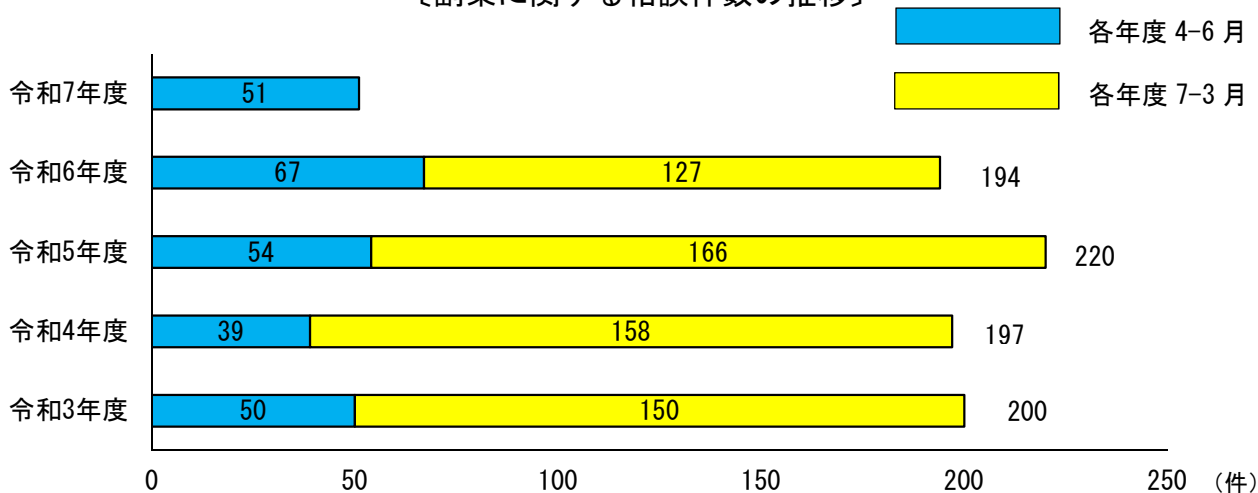
令和7年4-6月の副業に関する相談は51件で、前年同期より16件(23.9%)減少しました。過去5年間の相談件数の推移を見ると、減少傾向にあるように見受けられますが、これまでも増減を繰り返していることから引き続き注視していく必要があります。

収入を得るためのマニュアルの購入費用やサポート費用など様々な名目で請求される費用を、消費者金融から借りて支払うよう強要されたものの、全く収入を得ることができず、結果的に債務整理をする事態に陥った事例も散見されます。

(単位：件)

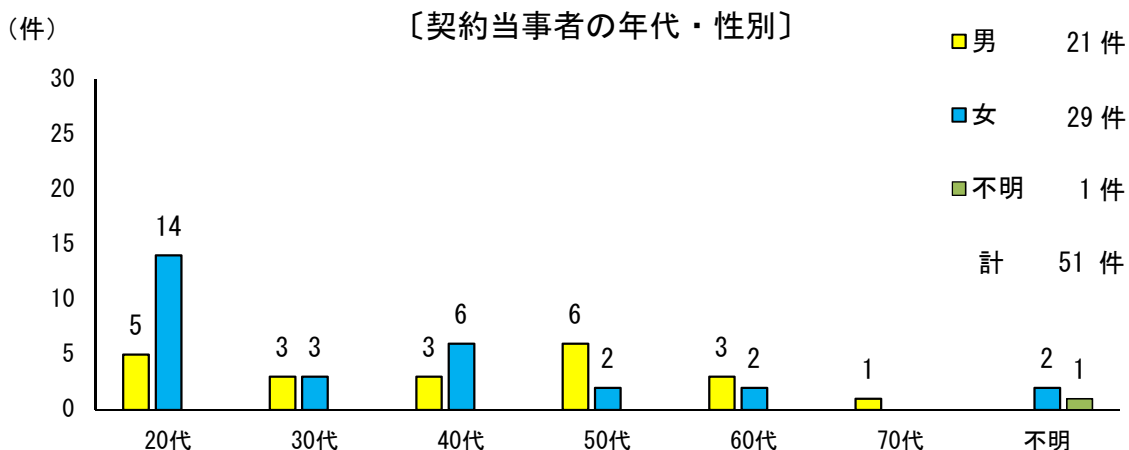
	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	51	67	▲16	76.1%

〔副業に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の14件が最も多く、次いで40代女性と50代男性がそれぞれ6件となっています。20代以下（今回は20代未満はなし）が全体の37.3%を占めており、前年同期34.3%よりも割合が高くなっています。

一方、性別では、女性が29件と全体の56.9%を占めています。



副業に関する相談に係る既払金額を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計は減少しましたが、一人当たりの平均既払金額は増加し、最大既払金額は前年同期と同額となりました。

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	24 人	36 人	▲12 人	66.7%
既払金額合計	18,791 千円	26,957 千円	▲8,166 千円	69.7%
平均既払金額（一人当たり）	783 千円	749 千円	34 千円	104.5%
最大既払金額	3,000 千円	3,000 千円	0 円	100.0%

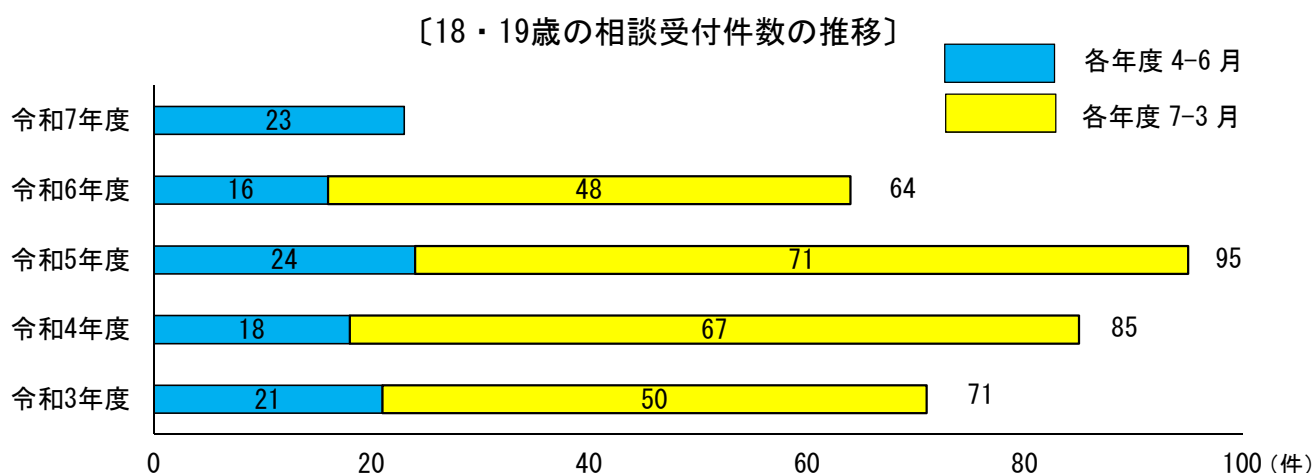
(3) 18歳・19歳の相談状況

① 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により契約の取消しが可能だった、18歳・19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和7年4-6月の18歳・19歳の相談件数は23件で、前年同期より7件（43.8%）増加しています。

過去5年間の18歳・19歳の相談件数を見ると、増加と減少を繰り返していることがわかります。



② 18・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和7年4-6月の18歳・19歳の相談では、契約していた脱毛エステ店が倒産したなどの保健・福祉サービスに関する相談が4件と最も多くなりました。次いで多いのは、インターネット通販においてトラブルの多い被服品と懸賞サイトやポイ活アプリなどの教養・娯楽サービスに関する相談がそれぞれ3件となっています。

（単位：件）

	商品・役務名	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	保 健 ・ 福 祉 サ ー ビ ス	4	0	4	-
2	被 服 品	3	1	2	300.0%
	教 養 ・ 娯 楽 サ ー ビ ス	3	2	1	150.0%
3	商 品 一 般	2	4	▲2	50.0%
	光 熱 水 品	2	0	2	-
	そ の 他	9	9	0	100.0%
	計	23	16	7	143.8%

4 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

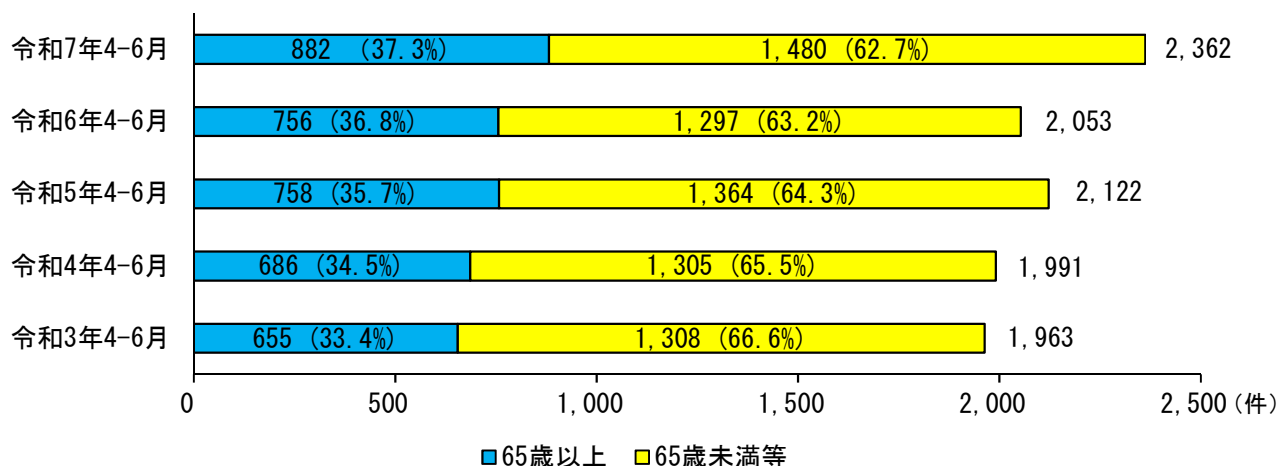
① 概況

令和7年4-6月の高齢者の相談は882件で、前年同期と比較して126件（16.7%）増加しています。相談全体に占める割合は37.3%で前年同期の36.8%から0.5ポイント増加しています。

（単位：件）

項目 \ 年度	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦 情	773	607	166	127.3%
問 合 せ	109	149	▲40	73.2%
計	882	756	126	116.7%

〔相談全体に占める高齢者の割合と相談件数の推移〕



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和7年4-6月の高齢者の相談では、不審な電話やメールなどの「商品一般」に関する相談が165件と最も多く、前年同期より34件（26.0%）増加しています。

次いで多いのは、運輸・通信サービスの136件で、前年同期より54件（65.9%）増加しています。光回線などのインターネット通信サービスに関する相談や、固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、保健衛生品の92件で、前年同期より13件（16.5%）増加しています。化粧品の定期購入に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

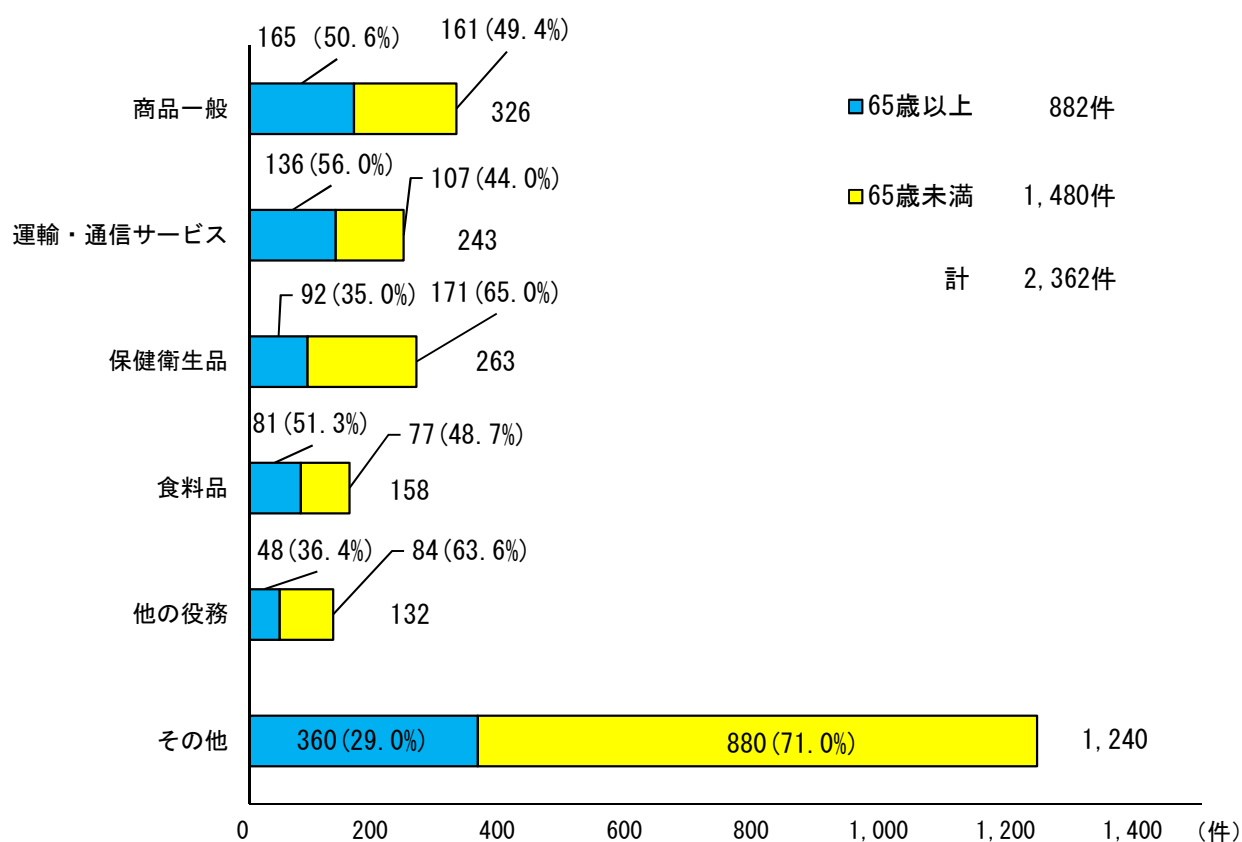
(単位：件)

	商品・役務名	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商 品 一 般	165	131	34	126.0%
2	運 輸 ・ 通 信 サービス	136	82	54	165.9%
3	保 健 衛 生 品	92	79	13	116.5%
4	食 料 品	81	73	8	111.0%
5	他 の 役 務	48	45	3	106.7%
	そ の 他	360	346	14	104.0%
	計	882	756	126	116.7%

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別の相談に占める高齢者の割合をみると、「運輸・通信サービス」に関する相談が56.0%と最も高くなっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないと言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談や、「あと2時間で電話が使えなくなる」という不審電話などの固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、「食料品」に関する相談が51.3%となっています。健康食品の定期購入のほか、海産物の強引な電話勧誘に関する相談などがありました。



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数は増加していますが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額とも大きく減少しています。

(単位：件)

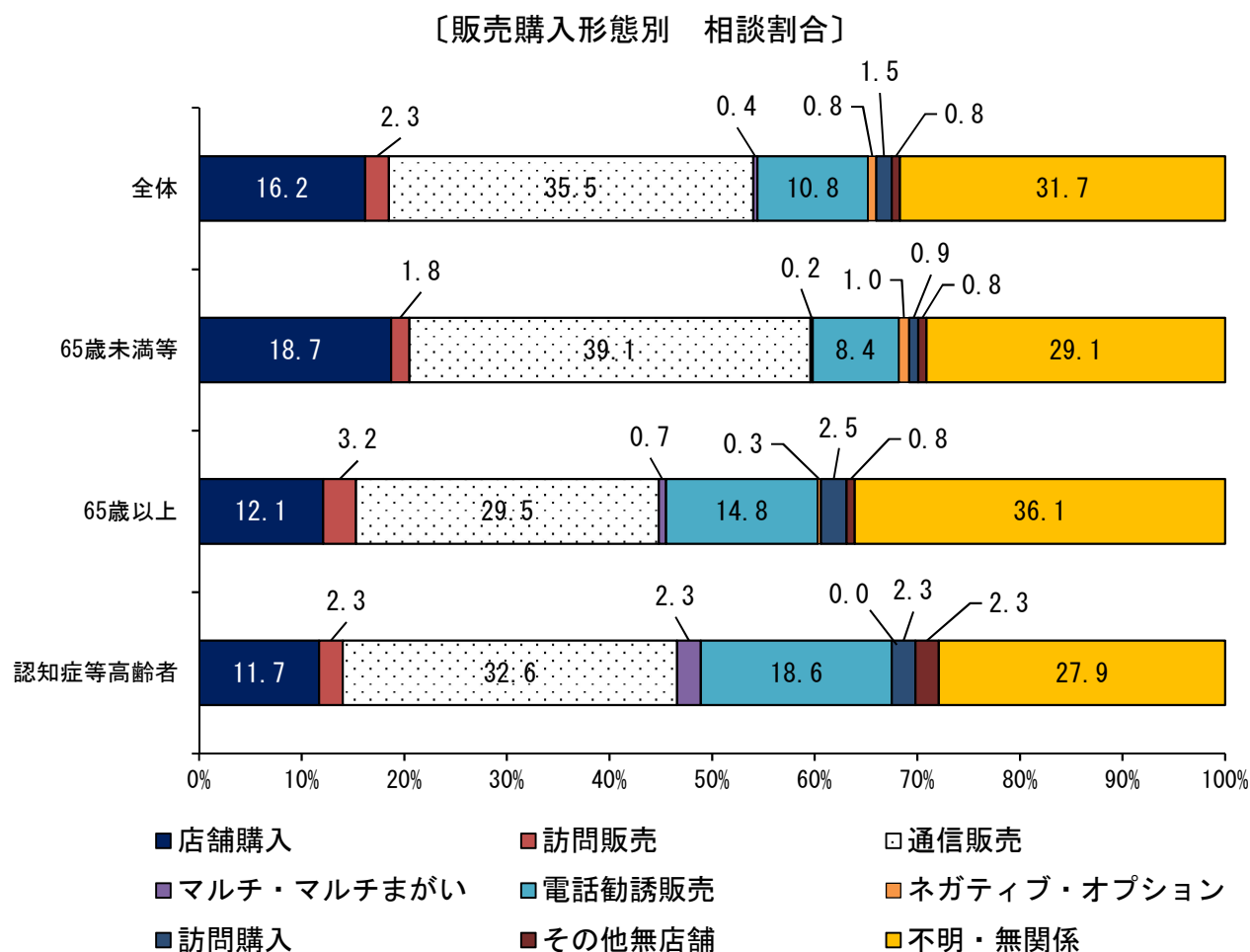
	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	187 人	158 人	29 人	118.4%
既払金額合計	60,811 千円	153,828 千円	▲93,017 千円	39.5%
平均既払金額（一人当たり）	325 千円	974 千円	▲649 千円	33.4%
最大既払金額	18,000 千円	40,000 千円	▲22,000 千円	45.0%

④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

その認知症等高齢者については、これまで多くを占めていた訪問販売や電話勧誘販売が減少する一方、通信販売が32.6%となり、前年同期（28.6%）よりも4.0ポイント増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。



(2) 高齢者の特殊詐欺の状況

① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は 21 件で、前年同期より 48 件 (69.6%) 減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が 7 件 (相談件数の 33.3%) と最も多く、次いでウイルス感染の偽警告 (サポート詐欺) の 4 件 (同 19.0%) となっています。

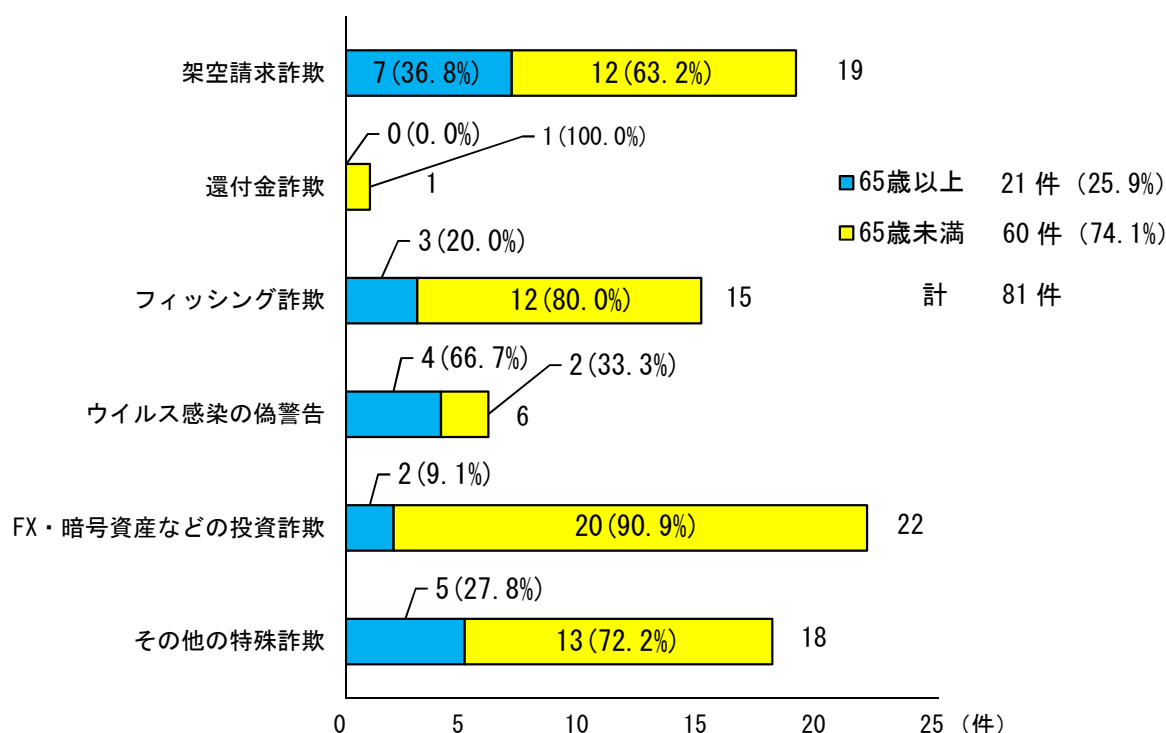
これまで、増加の一途をたどっていた特殊詐欺の相談が大幅に減少したことになります。

(単位：件)

類 型	年 度	令和 7 年 4-6 月 (a)	令和 6 年 4-6 月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		7	38	▲31	18.4%
架空請求詐欺		7	36	▲29	19.4%
還付金詐欺		0	1	▲1	-
融資保証金詐欺		0	0	0	-
オレオレ詐欺		0	1	▲1	-
ウイルス感染の偽警告 (サポート詐欺)		4	8	▲4	50.0%
フィッシング詐欺		3	14	▲11	21.4%
ワンクリック詐欺		3	1	2	300.0%
FX・暗号資産などの投資詐欺		2	4	▲2	50.0%
出会い系サイト・アプリ		1	4	▲3	25.0%
老人ホームの入居権詐欺		1	0	1	-
合 計		21	69	▲48	30.4%

② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、ウイルス感染の偽警告が 66.7% と最も高く、次いで、架空請求詐欺が 36.8% となっています。



③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額とも大幅に減少しています。

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年比 (a/b)
お金を支払った人の数	3人	7人	▲4人	42.9%
既払金額合計	2,064千円	18,804千円	▲16,740千円	11.0%
平均既払金額（一人当たり）	688千円	2,686千円	▲1,998千円	25.6%
最大既払金額	1,000千円	10,000千円	▲9,000千円	10.0%

5 多重債務に関する相談の受付状況

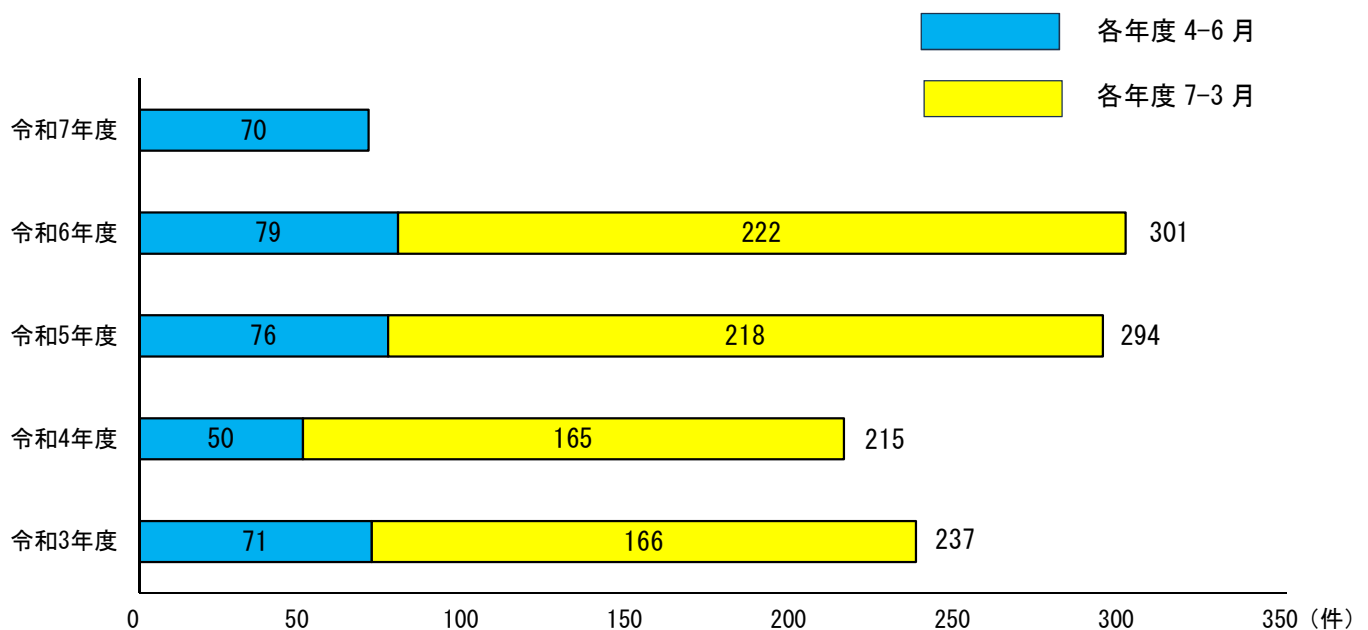
令和7年4-6月における多重債務に関する相談件数は70件で、前年同期より9件(11.4%)減少しています。

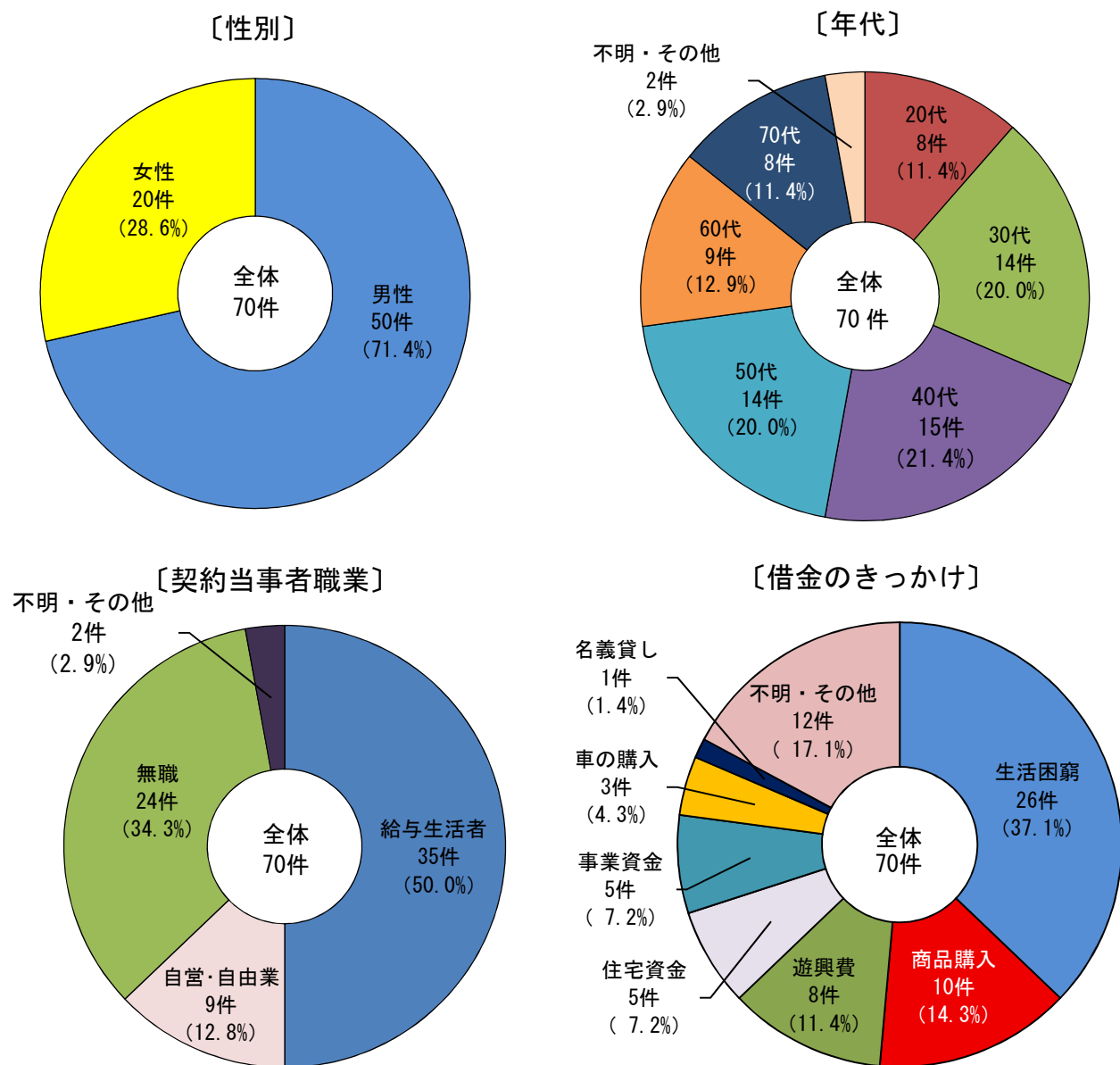
(単位：件)

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	70	79	▲9	88.6%

過去5年間の多重債務に関する相談件数を見ると、増減を繰り返しているようにみられます。

〔多重債務相談件数の推移〕





6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和7年4-6月におけるヤミ金などに関する相談件数は3件で、前年同期より4件（57.1%）減少しています。

（単位：件）

	令和7年 4-6月 (a)	令和6年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	3	4	▲1	75.0%
融資保証金詐欺	0	3	▲3	-
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	0	0	0	-
計	3	7	▲4	42.9%

7 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和 7 年 4 - 6 月		令和 6 年 4 - 6 月	増 減
			構成比 (%)		
商 品	商 品 一 般	326	13.8	299	27
	食 料 品	158	6.7	154	4
	住 居 品	106	4.5	64	42
	光 熱 水 品	52	2.2	60	▲8
	被 服 品	126	5.3	69	57
	保 健 衛 生 品	263	11.1	183	80
	教 養 娛 楽 品	131	5.6	111	20
	車 両 ・ 乗 り 物	53	2.2	65	▲12
	土 地 ・ 建 物 ・ 設 備	45	1.9	28	17
	他 の 商 品	14	0.6	6	8
	小 計	1,274	53.9	1,039	235
役 務	ク リ ー ニ ン グ	4	0.2	5	▲1
	レンタル・リース・貸借	79	3.3	84	▲5
	工 事 ・ 建 築 ・ 加 工	45	1.9	49	▲4
	修 理 ・ 補 修	28	1.2	15	13
	管 理 ・ 保 管	2	0.1	0	2
	役 務 一 般	15	0.6	14	1
	金融・保険サービス	184	7.8	224	▲40
	運輸・通信サービス	243	10.3	173	70
	教 育 サ ー ビ ス	1	0.0	2	▲1
	教養・娯楽サービス	149	6.3	132	17
	保健・福祉サービス	114	4.8	70	44
	他 の 役 務	132	5.6	136	▲4
	内 職 ・ 副 業 ・ 相 場	18	0.8	25	▲7
	他 の 行 政 サ ー ビ ス	14	0.6	9	5
	小 計	1,028	43.5	938	90
他 の 相 談		60	2.6	76	▲16
合 計		2,362	100.0	2,053	309

商 品 主 な 相 談 の の	① 商品一般（商品を特定できないもの） ② 保健衛生品（化粧品、医療用具、医薬品） ③ 食料品（健康食品、魚介類、穀類） ④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、書籍・印刷物、電話機・電話機用品） ⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、履物、洋装下着）
役 務 主 な 相 談 の の	① 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、電報・固定電話） ② 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、生命保険） ③ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス、教室・講座） ④ 他の役務（役務その他、外食・食事宅配、家事サービス） ⑤ 保健・福祉サービス（理美容、医療、浴場）